

災害への備えリテラシーを向上する教材アプリの開発

～文化への配慮と健康維持に着目して～

看護学研究科 共同災害看護学専攻（5年一貫制博士課程）

◎D5 藤田さやか 教授 ましのそのえ 増野園恵

キーワード

災害, 備え, 教材アプリ, 文化, 健康維持

研究概要

本研究では、日本に在住する外国人を対象としている。防災教育を受けていないことによる基本的な知識の不足、言語面・情報収集面でのハンディキャップ、文化的な違いのために起こる避難所生活での困難性など、外国人の脆弱性に着目し、これらを克服するための一助として、教材の開発を行った。

教材は災害時の健康維持を見据えた自助の備えの促進を目的とし、行動枠組みを「リスク認知」「備蓄」「避難計画の立案」とした。また、先行研究からは、基本的な知識の提供だけでは備えの行動化につながらないことが明らかになっており、本研究では自身の文化や生活に合わせた方法を考え、実行可能とするためのプロセスを取り入れた。

現在、この教材が実用可能かどうか検証中である。

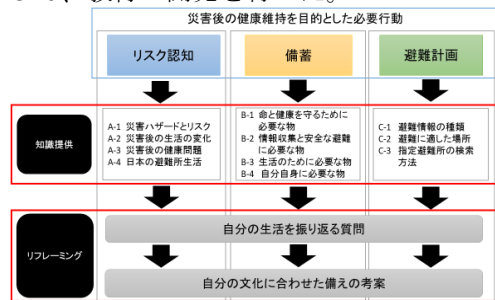


図 教材の構造

アピールポイント

本研究の新規性と独自性は、これまで連携の不足していた『外国人支援』『防災』『看護』という、それぞれ専門性の高い領域を繋ぐものである点である。また、本研究で開発した教材の有用性が実証されれば、当事者である外国人が日本で生活する上で必要な防災に関する知識を得て行動化につなげるためのツールのみならず、支援者側の教育・支援媒体としての広い汎用性が期待される。

多領域連携の視点から、教材の開発には日本語教育や工学系研究者に協力を依頼し、オンライン上で閲覧できる形式にした。外国人のリテラシーに配慮してイラストを多用し、英語と「やさしい日本語」の2言語対応としている。今後、日本に在住する外国人の多様性に合わせて内容を洗練し、多言語化していくことが課題である。

※開発したアプリ教材の一例を右に示す。
(やさしい日本語版)

